

## 新島の火山活動解説資料（平成 26 年 11 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

### 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2）

式根遠望カメラ（丹後山の西南西約 4 km）による観測では、丹後山山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4）

30 日 16 時 53 分に新島・神津島近海で発生したマグニチュード（M）2.7<sup>1)</sup>の地震で、新島村大原、本村で最大震度 2 を観測しましたが、これ以外に新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されていません。

1) マグニチュードの値は暫定値で、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況（図 1、図 3 - ）

GNSS<sup>2)</sup>連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

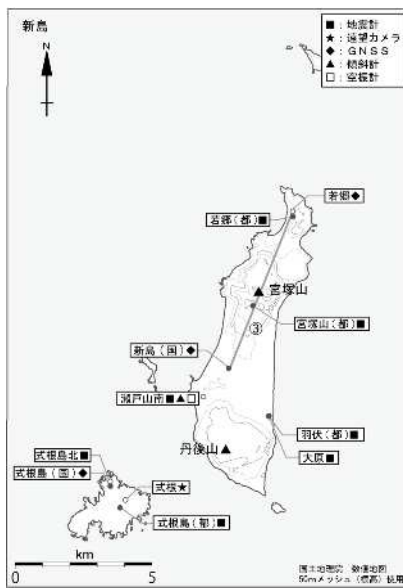


図 1 新島 観測点配置図  
GNSS 基線は図 3 の に対応しています。



図 2 新島 丹後山山頂部の状況  
（11 月 23 日、式根遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 12 月分）は平成 27 年 1 月 13 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び東京都のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

【計数基準の変遷】	
A型地震	2010年10月1日(観測開始)～ 瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内
BH型地震	
初期	2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南振幅0.8 $\mu$ m/s以上
変更	2013年10月1日～ 瀬戸山南振幅4.0 $\mu$ m/s以上

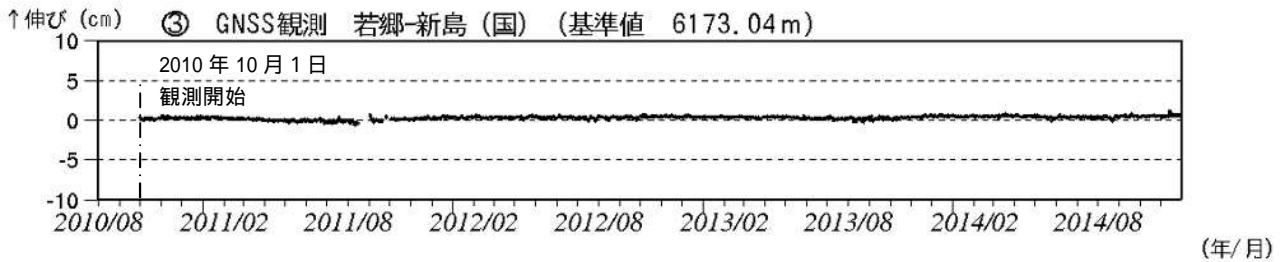
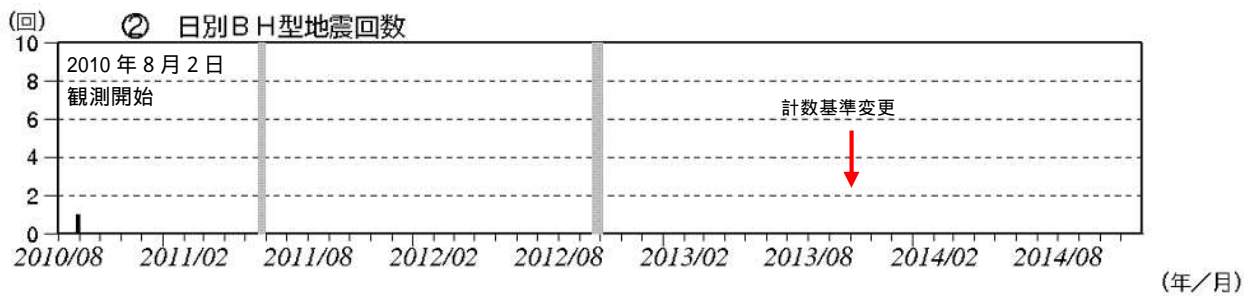
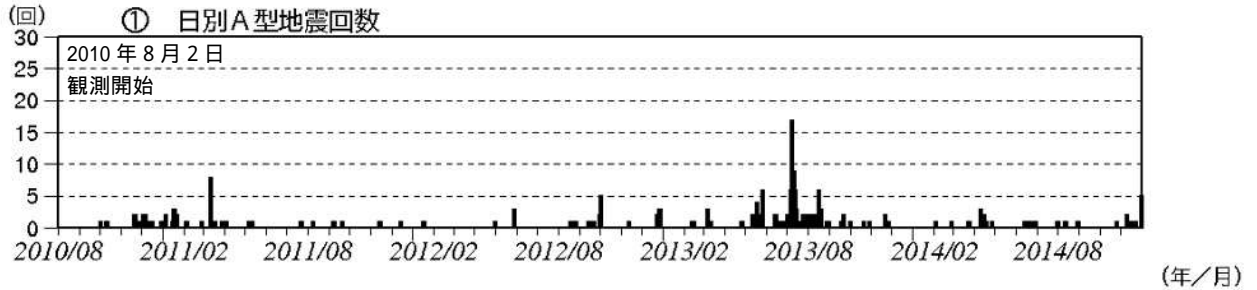


図3 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2014年11月30日)

新島周辺の日別地震回数

- ・ 図の灰色部分は機器障害のため欠測。

GNSS連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院

- ・ は図1のGNSS基線に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測期間を示します。

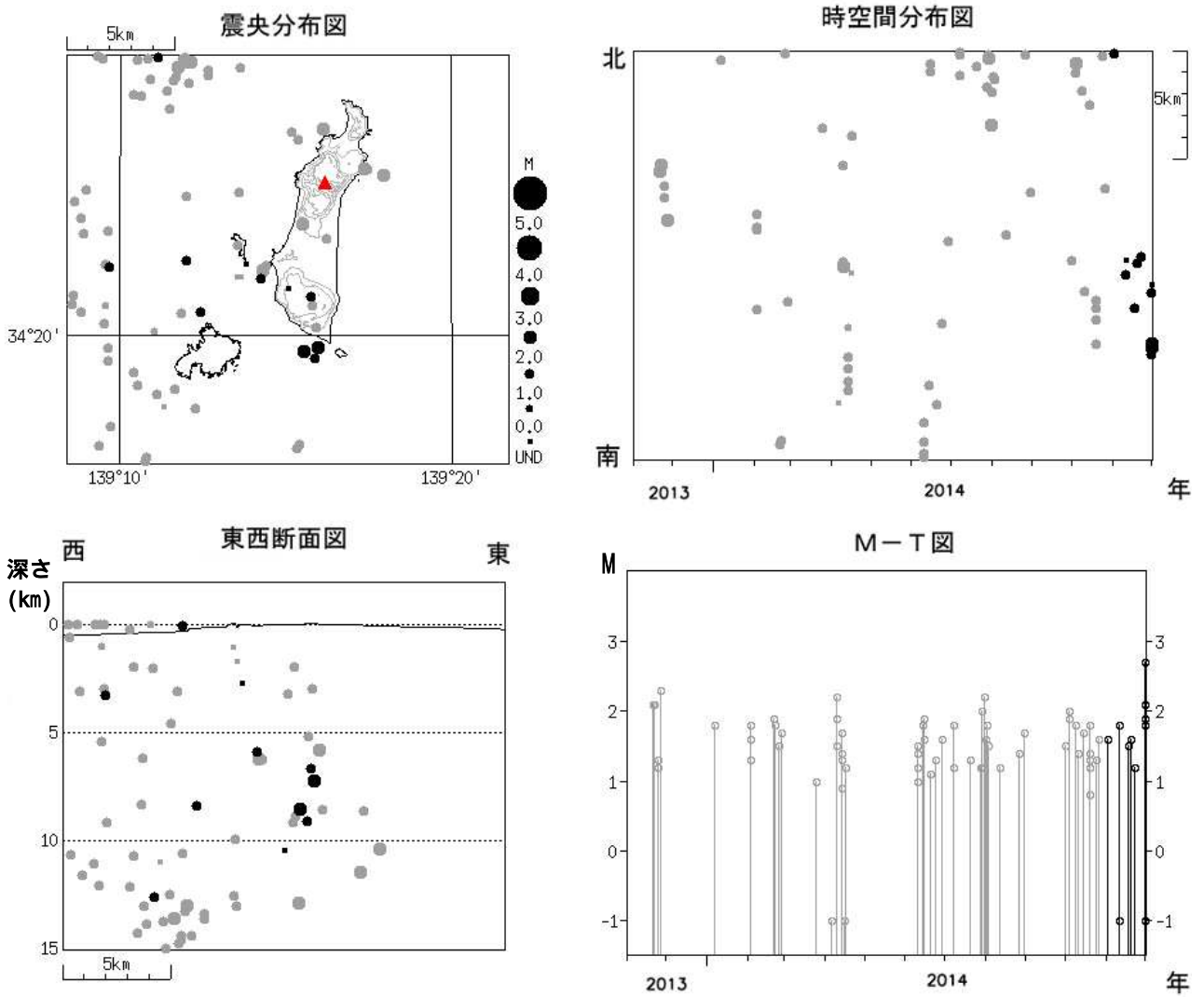


図4 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2013年11月1日～2014年11月30日）  
 : 2013年11月1日～2014年10月31日      : 2014年11月1日～11月30日  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）以外の地震が含まれるため、図3 - の日別A型地震回数とは異なります。